

小学校第6学年 外国語科学習指導案

奈良教育大学教職大学院生

大阪市立大淀小学校 教諭 藤原 愛子

1 単元名 「We all live on the earth.」

2 単元の目標

地球に暮らす生き物どうしのつながりについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。また、生き物が絶滅する原因の要因が人間の営みであることに気付く中で、生き物や自然環境を守るためにどんなことができるのか考え、自分の行動を変容することができる。

○Where do～live? , ～live in..., What do～ eat? ～eat…およびその関連語句などについて理解するとともに、地球に暮らす生き物どうしのつながりなどについて、聞き取る技能を身に付けている。

(知識及び技能)

○地球に暮らす生き物について考えるために、それら生き物どうしのつながりなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて互いの情報や考えなどをさまざまな方法で伝え合っている。

(思考力・判断力・表現力等)

○地球に暮らす生き物についてそれら生き物どうしのつながりについて考え、私たちにできることを考え、簡単な語句や基本的な表現を用いて、互いの情報や考えなどを伝え合おうとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「Where do～live? , ～live in..., What do～ eat? ～eat…およびその関連語句などについての理解・活用」「地球に暮らす生き物が置かれてる状況理解」「地球に暮らす生き物について、自分たちにできることの行動化」を教材として取り上げる。

外国語科の教科内容にESDの視点を取り入れる教材であるので、身に付けるべき外国語科の知識・技能の獲得をめざすことが前提にある。外国語科でESDの視点を取り入れる大きな理由として、ESDでの取り組みは地球的課題解決への挑戦であり、世界各国との協働が必要になる。そして、協働するためのツールとして外国語の存在が大きな役割を果たす。教材として取り入れる内容をESDの視点にすることで、外国語が使える喜びを感じつつ、地球に暮らす生き物が直面している問題について考えや理解が深まる。

理科「生物どうしのつながり」や道徳など、他教科との関連も考えられ、そのような教材の特色を生かし、多角的な視点から物事を考えられるようになる教材である。

(2) 児童観

本校は、大阪市の中心地近くにある学校であり、日常生活で生き物について考える機会が乏し

い環境である。保護者は会社勤めが多く、生き物について日頃から子どもたちと保護者が話したり、考えたりする機会は少ないようだ。このような環境下で、自分の生活と生き物たちとのつながりを理解できていない児童が一定数存在する。

(3) 指導観

本題材の指導にあたっては、児童が地球に暮らす生き物について考え、最終目標ととして、そのつながりを発表することができるように段階的に指導する。

まず、教科書のデジタル教材にある「生き物が住んでいる場所」や「食べているもの」が取り上げられたクイズに取り組み、本単元のねらいや活動への見通しがもてるように指導する。さらに、教師が作成したポスターから、最終目標のイメージを持てるようにする。そして、生き物が暮らしている場所や食べ物を尋ね合ったり、答えたりするやりとりを十分に行う。教科書に付属しているミニカードも活用して発話を促し、表現に慣れ親しむようにする。その際、ミニカード以外の動物にも児童が興味をもてるように、教師側から質問したり、ALT とのやりとりを活用したりする。ここでは、「生き物が暮らしている場所」と「何が何を食べているのか」に関する基本的な表現を身に付けられるように指導する。

次に、絶滅危惧種を取り上げ、児童とともに動物たちの生息場所の消滅や動物たちの食べ物の不足していることなどをテーマに考える。動物の乱獲や、開発による生息地の破壊、外来種による影響、環境汚染や地球温暖化などの人間の活動によって、絶滅のスピードが加速していることを絵本や視覚的教材を用いて気付かせたい。最終的には、自分たちが自身の生活を見直し、絶滅を抑えるために自分たちにできることを考えられるように指導する。児童が自分たちにできることを考えるためには、すでに何か行動を起こしている人との出会いが大きなポイントになるだろう。そこで、関西の自然保護に取り組んでいる“関西自然史センター”からゲストスピーカーを招き、実践されている取組や“自分たちにできること”を考える機会を設ける。

さらに次の段階では、児童それぞれが絶滅の危機に瀕している動物について調べ、その動物が住んでいる場所や食べ物、どうして絶滅の危機に瀕している要因を探る視点で調べ学習を行う。児童が調べたことについて、オリジナルのポスターにまとめる過程で、自分の伝えたいことを取捨選択して要約するスキルを身につけさせたい。

最後には、作成したポスターをもとに、学習した英語表現で友達にクイズを出す活動を取り入れることで、英語の表現に触れる時間を確保し、発話の機会を保障する。その際、社会の一員として自然や動物を守るために何ができるのかを子どもたちが考え、行動化に移せるように支援する。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

有限性…食物連鎖が崩れることで、絶滅する動物がおり、動物の生命は有限であるということ

連携性…すでに自分事として活動している人から話を聞いたり、教えていただいたりすること

は、世代間の連携につながるということ。

責任性…社会の一員としての自覚をもち、人間も含めたすべての動物がより良い環境で生存できる未来を、一人一人が考える必要があること。

・ 本学習で育てたい ESD の能力・態度

○批判的に考える力

地球に暮らす生き物に配慮した行動をしている。

○コミュニケーション力

海や陸に住む生き物の環境づくりについて、地域の方々と交流を通して考えを聞いたり、友達との意見交換を通して、考えを広げたり深めたりする。

○つながりを尊重する態度

人・人間以外の生き物・自然・社会などのつながり、関わり、広がり尊重し、「人間の生活も、海や陸に存在する生き物も豊かになるためにはどうすればいいのか」について考える。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

○自然保護や生態系の保全を重視すること

私たちの豊かさばかり求めるのではなく、地球に暮らすすべての生き物が豊かに生活できるように、環境に負荷をかけるような行動を慎むようにしなければならないことが分かる。

○世代内の公正

社会の一員として地球環境が豊かになるような食生活や消費行動が大切であることが分かる。

・ 達成が期待される SDG s

- 1 1 陸域生態系
- 1 2 持続可能な消費と生産
- 1 4 海洋資源

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① “Where do～live? , ～live in… , What do～eat? ～eat…およびその関連語句” などについて理解し、関連語句を使って、生き物の暮らしている場所や食べているものなど、英語で表現する技能を身に付けている。</p> <p>②地球に暮らす生き物どうしのつながりなどについて、調べたことや教えてもらったことを、自分の言葉で表現する技能を身に付けている。</p>	<p>①地球に暮らす生き物について考えるために、それら生き物どうしのつながりなどについて考え、簡単な語句や基本的な表現を用いて、聞いたり、伝え合ったり、話したりしている。</p> <p>②自然保全に努めている地域の方の話や、友達と話し合う中で、自分の考えを広げたり、深めたりしながら、地球に暮らす生き物も豊かに、私たちの生活も豊かにするための方法を考え、行動を選択し、表現している。</p>	<p>①地球に暮らす生き物について考えるために、それら生き物どうしのつながりなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、聞いたり、伝え合ったり、話したりしようとしている。</p> <p>②絶滅の危機に瀕している生き物が増えている現状から、人間にとっても、その他の生き物にとってもよりよい環境の実現に向けて、自分のできることを模索し創造し、実践しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全8時間 外国語科5時間+総合の時間3時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>わたしたちは、自然や生き物と、どのようにかかわっているのだろう</p> </div>		
<p>1. “地球に暮らす生き物クイズ” を聞き、学習内容への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が作成したポスターからクイズを出題する。また、指導者のスモールトークを聞き、単元の内容のイメージをもつ。 ・教科書のデジタル教材を活用し、学習表現に慣れ親しむ。 ・教員とALTとの会話のデモンストラーションから、生き物たちが暮らしている場所や食べているものについて尋ね合う活動のやり方を理解し、自分の考えをまとめる。 <p>2. 前時で学習した表現を使って、ペアやグループで、生き物が暮らしている場所や食べているものについて尋ね合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある歌やチャンツを取り入れ、英語の音に慣れ親しむ。 ・ミニカードを用いて自分の考えを整理し、学習した表現を用いて、友達や教員と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が作成したポスターから授業に入ることで、単元への興味関心を高めさせる。 ○何度も音声を聞き、シャドーイングやペアで練習を取り入れ、発話の量を増やすようにする。 ○教員が英語を話すモデルとなる。 ○英語のアクセントや発音について丁寧に取り上げ、基本的な音の出し方を理解しやすくする。 ○付属のミニカードを用いて、自分の考えを整理しやすくする。 	<p>(イ①)</p> <p>(ア①)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>人間もほかの生き物たちも、安心して暮らすためには、どうすればよいのだろう</p> </div>		
<p>3. 絶滅危惧種をテーマに、地球に暮らす生き物が直面している課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本「ゼツメツキグシュ」を聞き、絶滅の危機に瀕している要因を考える。 <p>4. ゲストスピーカーを招いて、自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“大阪自然史センター” からゲストスピーカーを招待し、行っている自然保全活 	<ul style="list-style-type: none"> ○絶滅危惧種に定められている生き物を取り上げ、一因が人間の生活に関係していることが理解できるように、視覚教材を活用する。(温暖化、外来種、化学薬品、住み家) ○専門家としての知見を加える。 ○子どもたちにもできる、身近な取組を提案し、行動化している 	<p>(ウ②)</p> <p>(イ①②)</p>

動について知る。	自分をイメージしやすくする。	
<p>生き物や自然環境を守るために、私たちにどんなことができるだろう</p>		
<p>5. 児童それぞれが興味のある絶滅の危機に瀕している生き物を調べ、その生き物が住んでいる場所や食べているもの、絶滅の危機の要因について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器で調べ学習を行い、自分が興味関心のある生き物について調べる。 <p>6. 調べたことを、オリジナルポスターにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絶滅の危機に瀕している生き物に焦点をあて、調べたことをポスターにまとめる。 <p>7. 学習した表現を使って友達にクイズを出す練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元で学習表現である “Where do～live? , ～live in…, What do～eat? ～eat…およびその関連語句” を活用できるように発表の練習をする。 ・ 学習した英語を活用し、自作のポスターをもとにクイズが出せるように練習する。 <p>8. ポスター発表会を行う。(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元で学習した “Where do～live? , ～live in…, What do～eat? ～eat…およびその関連語句” を活用し、自分が選んだ絶滅の危機に瀕している生き物について発表する。 ・ これまでの学びを伝えるポスター発表会を行う。その際、分かったことで終るのではなく、「今後の行動」にまで言及できることをめざす。 <p style="text-align: center;">(学校生活、委員会活動、学級活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○調べる生き物を選択できるようにすることで意欲的な活動を促す。 ○第1時で使用したポスターを参考に作成させ、具体的なイメージをもてるようにする。 ○発表の仕方や伝え方に困難を感じている児童には、話型のヒントカードを渡し、取組みやすくする。 ○ “Where do～live? , ～live in… What do～eat? ～eat およびその関連語句” を活用できるように発表の練習をする。自分が選んだ絶滅の危機に瀕している生き物について発表できるようにする。 ○グループ内で発表活動を設定することで、全員の発表にかかる持ち時間を確保する。 ○学びが生活に活かされるように、具体的な実践方法などをみんなで共有できる振り返りにする。 	<p>(ウ①②)</p> <p>(ア②)</p> <p>(イ①)</p> <p>(ア①)</p> <p>(イ①)</p>